

令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 18	公益目的事業 19
主査名	高見淳史 東京大学准教授	
研究テーマ	都市交通の新技术・新サービスの空間計画への展開のあり方	
<p>申請者らは過去数年間、Mobility as a Service (MaaS) や自動運転技術をはじめ、都市交通に関連する新しい技術やサービスが登場しつつあることを背景に、これらを都市へ受け入れる際の計画論の構築を目指した自主研究プロジェクトを実施する機会をいただいていた。本研究提案はこれを継承するもので、特に新技术・新サービスの空間計画としての展開の側面から計画論の検討を行うことを目的とする。具体的研究課題として想定しているトピックは以下の通りである。研究会を3回(予定)開催し、研究メンバーや外部講師からの報告に基づいて討議を行う形式を基本として進める。</p> <p>第一に、新技术・新サービスを空間計画の中に位置付けて展開するための計画立案手法に着目し、主に研究メンバーらが関与している(または関与してきた)東京圏郊外の事例をベースに、そのあり方の検討を行う。事例の一つとして、主査が協力している千葉県・柏の葉地域の「柏の葉交通戦略」の改定では、戦略の中に新技术・新サービスを取り込むことを目指しており、これを題材として取り上げる予定である。また、空間計画のあり方の検討に際しては、With/Post コロナや「新しい生活様式」の視点も可能な限り踏まえたい。</p> <p>第二に、過年度プロジェクトから引き続き、自動運転車両やそれを活用した交通サービスが都市住民の生活・活動や地域に与える影響の分析を深める。特に、人口規模や空間構造といった地域特性や、サービス供給側の要因(Shared Autonomous Vehicleの配車ポリシーなど)の影響に着目することを考えている。なお、分析に反映するため、人々の行動選好を把握することを目的としたアンケート(WebベースSP調査を想定)の実施を計画している。</p> <p>加えて、上記に限らず関連するトピックの分析や、国内外の都市における新技术・新サービスの導入や展開に関連する政策や計画の事例、関連の研究などの動向の情報収集を、過年度プロジェクトから継続して実施する。</p> <p>以上を踏まえ、新技术・新サービスの空間計画としての展開を図る上でのあり方・計画論や、関連する研究課題について幅広く討議を行い、最終的に成果をとりまとめて報告書を作成する。</p>		